

(様式例)

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

<第2学年>

- ・校内平均正答率に関して、観点「思考・判断・表現」が昨年度に対して10ポイント以上と大幅に上回っている。授業内で数学的に考える活動を重視し、考えを発言したり、書く活動を取り入れたりしたことが影響していると考えられる。

<第3学年>

- ・校内平均正答率に関して、観点「思考・判断・表現」が昨年度に対しておよそ2ポイントと僅かではあるが上回っていた。授業内で数学的に考える活動を重視し、学びあい学習の導入により、考えを発言したり、書く活動を取り入れたりしたことが影響していると考えられる。

(2) 課題

<第2学年>

- ・校内平均正答率に関して、観点「知識・技能」が昨年度に対してやや下回っている。習熟度別少人数編成において、基礎クラスでの習熟が求められる。

<第3学年>

- ・校内平均正答率に関して、観点「知識・技能」が昨年度に対して4.5ポイント下回っている。授業においては既習事項の復習・習熟が求められる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全国の目標値を7ポイント上回っている。		
第2学年	全国の目標値をやや上回っており、令和6年度よりも上がっている。	全国の目標値をやや上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	全国の目標値をやや上回っており、令和6年度と同じポイント値である。	全国の目標値をやや上回っており、令和5年度よりも上がっている。 (第2学年時)	全国の目標値をやや上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	問題形式に関係なくどの問題においても取り組むことができている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より1ポイント上回っている。	目標値よりも1.1ポイント下回っている。	関数の領域に関する問題並びに記述する問題への取り組みに課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より1.4ポイント上回っているが、実力は持っているが、自分の解答に対して自信や確証の持てない解答方法で答えてしまったことが結果となってしまったことが結果データより伺える。	目標値よりも1.4ポイント上回っているが、課題で得られた情報を数式やグラフ、図で表して考える、また、グラフや図から推測することに苦手意識を持っていることが今回のデータから伺える。	箱ひげ図に対する考察と予測や関数のグラフの変化から先の数値を読み取り、予測、考察をする力に課題を残す。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎基本の徹底を図る。計算過程がわかるようにノートテイクを丁寧に行うようにする。	計算過程を説明したり、成り立つ理由を考え説明させる活動を多く取り入れる。	ドリルパークを含め多くの問題に取り組みさせる。日常生活の中で数学が活用できる場面について考えさせ、深い学びにつなげる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ドリルパークのA I 機能をより活性化し、生徒が自ら課題となっている内容に適切に取り組める環境を整える。	授業において、まず十分に考えて自らの考えをもつことを重視する。その上で考えを発言したり紙に書いたりする活動を、これまで通り充実する。	ドリルパークのA I 機能を用いて課題を個別最適化し、生徒が主体的に学習する態度を養う。授業においても、地域や生徒の状況に適した教材を開発し、主体的に取り組める授業を展開する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っているが、単元別に分析を行うと、連立方程式の分野で他の分野に比べて低い数値である。基礎的な計算力を身に付けるため、習熟度別のプリントや復習を適宜行う。	証明の分野に課題を残す。自分の考えを順序だてて説明することが苦手な生徒が多い。日頃の授業では説明を促し、考える発問を行う。	データの活用など、日常生活と関わる分野では、昨年度より、授業で取り組んでいる分野を引き続き関数にも視野を広げ、日常での数学を意識しながら、深い学びにつなげる。